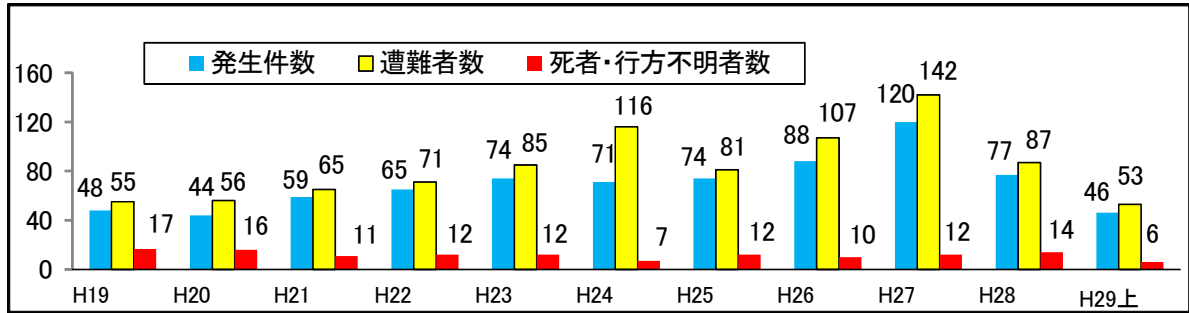


群馬県内の山岳遭難発生状況（平成29年上半期）

1 発生状況

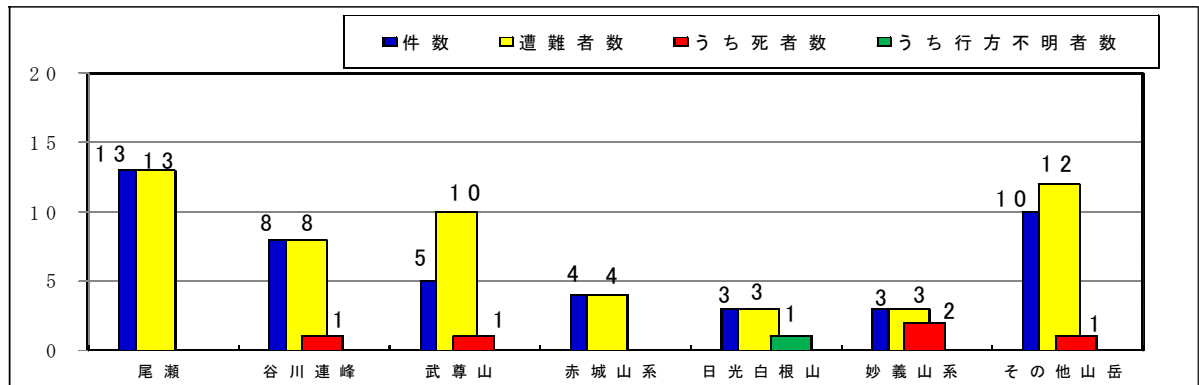
	発生件数 (件)	遭難者数 (人)	死 亡	救 出		行方不明
				怪我あり	怪我なし	
平成29年	46	53	5	26	21	1
平成28年	25	30	7	13	10	0
前年比	+21	+23	-2	+13	+11	+1



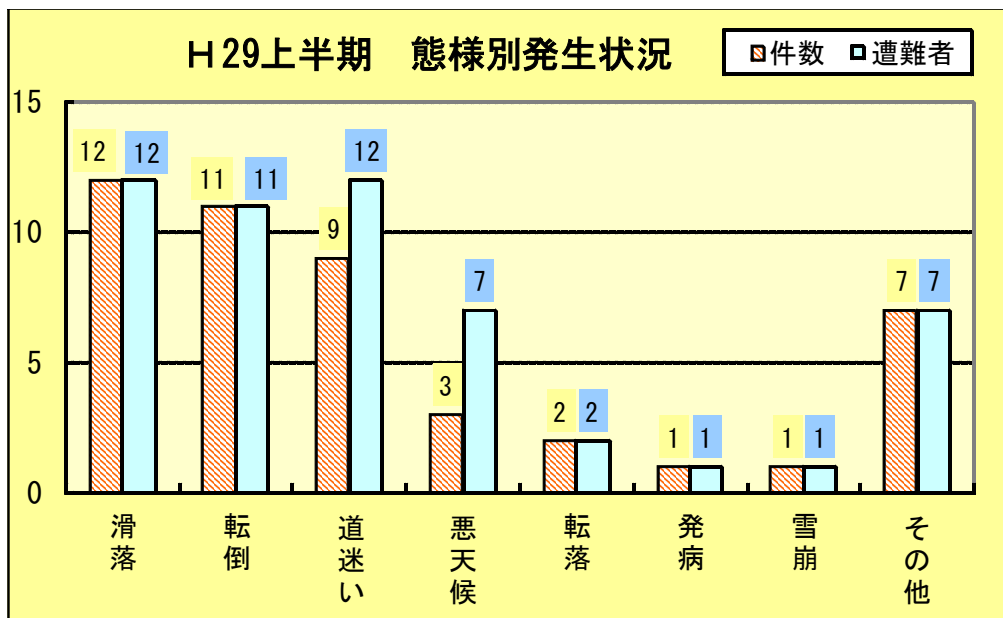
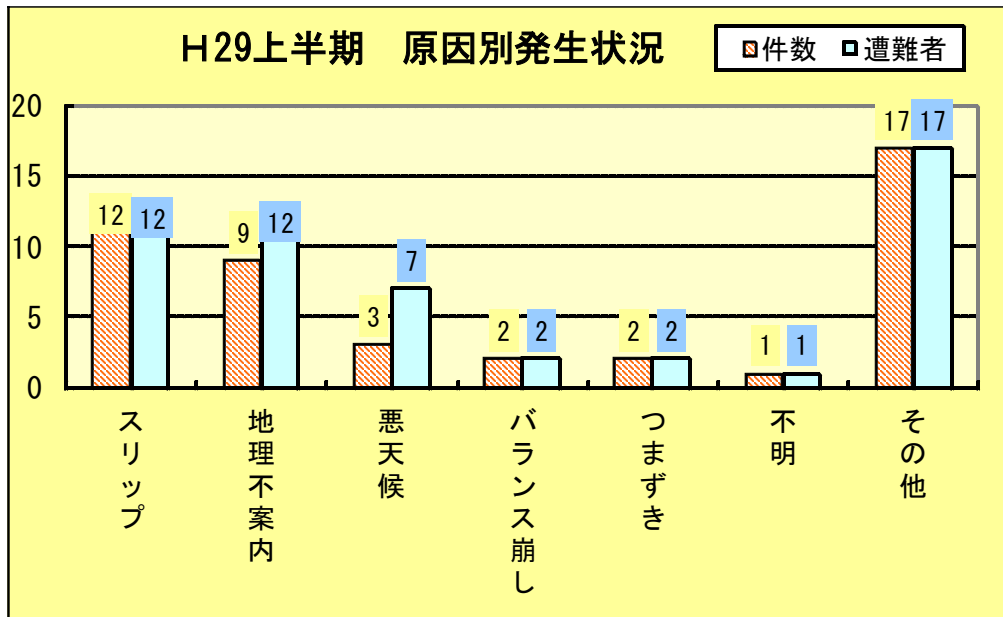
上半期の発生状況（過去10年 年別）

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29 (1~6)
発生件数	23	12	21	29	23	28	35	23	53	25	46
遭難者数	24	16	23	30	26	61	37	26	63	30	53
死者数	8	7	5	4	4	6	7	2	4	7	5

2 発生の特徴



山 系 別	尾瀬13件、谷川連峰8件、武尊山5件、赤城山系4件、日光白根山・妙義山系各3件・鹿俣山・根本山・金精山・毛無岩・荒船山各1件、その他山岳5件
警 察 署 別	沼田署32件、前橋署4件、桐生署・富岡署・安中署各3件、長野原署1件
入 山 目 的 別	登山41人、スキー登山3人、山菜採り・沢登り各2人、その他5人
年 齢 別	20歳未満1人、20歳代7人、30歳代10人、40歳代7人、50歳代8人、60歳代10人、70歳代9人、80歳代1人
男 女 別	男性37人、女性16人
月 別 ・ 曜 日 別	1月2件、2月・3月各7件、4月4件、5月・6月各13件 月曜7件、火曜5件、水曜2件、木曜3件、金曜9件、土曜・日曜各10件
居 住 地 別	県内居住者8人、県外居住者45人



◎ 登山における注意点

最近の山岳遭難の特徴は、中高年登山者による遭難の増加です。

特に体力の消耗による下山中の滑落・転倒事故や無理な計画による疲労が原因の事故、事前の調査不足による道迷い、健康チェックを怠った発病等が増加するとともに、無計画で安易な登山の末の道迷いにより日没を迎え、ヘッドライト等の採光具を持たないがために行動不能となり、救助要請が行われる事故が発生しています。

また、標高の高いところでは気温が急激に低くなり、冬山と同様な条件下になることも予想されますので、次の点に十分注意し、安全な登山を心掛けてください。

◎ 注意点

- 自分の体力、技術、経験に応じた山を選び無理のない計画で行動しましょう。
- 何事も準備が大切です。夏山といえども全国では低体温症による事故も発生していることから、事前に気象情報や登山コース危険箇所等の確認を行い、また、標高の高い山の気象は冬山と同様であることを認識し十分な装備を所持しましょう。
- 天候が急変したときや予定時間に遅れた場合は直ちに下山するよう心掛けましょう。
- ヘッドランプや防寒具など必要な装備品を必ず携行しましょう。
- 家族や職場等に登山コースや帰宅時間、非常時の連絡方法等を必ず伝えるとともに、携帯電話等の連絡手段を確保しておきましょう。
- 計画的な登山を行うため、また万が一に備え、登山計画書（登山届）を提出しましょう。

◎ 特に夏山における注意点として

- 夏山とはいえ、標高の高い山では気象の変動により冬山並の気象条件となりますので、十分な装備品を所持してください。
- 夏山登山では脱水が大敵ですので、こまめに十分な水分を補給しましょう。
- 下山中、疲労や脱水から足の痙攣等により、転倒して怪我をする事故が多発するので、日頃から、体力維持のためのトレーニングを行いましょう。

◎ 特に秋山における注意点として

- 秋は日没が早く、登山開始時間が遅ければ遅いほど、下山時間に影響を及ぼすので、日没前には必ず下山できるように、早め早めの行動を心掛けましょう。
- 採光具を携行しないために、行動不能となる遭難が秋山では多発しています。



※ 携帯電話からQRコードにアクセスすると、登山計画書の届出ができます。

